

- 問1 瀬戸大橋を含む本州四国連絡橋の開通にともなう交通の変化について述べた文として、正しいものはどれですか。 （2023年 群馬県公立入試 類似）
1. 高速道路の整備によって自動車による陸上交通が中心となり、鉄道連絡船との接続を目的としていた鉄道路線の廃止などの影響が見られた。
 2. 橋の開通によって本州と四国の往来が容易になった結果、フェリーの利用者が急増し、港周辺の鉄道網が以前よりも複雑化した。
 3. 交通網の整備により四国地方への観光客が増加したため、かつて廃止されていた港への鉄道連絡線をすべて復旧させ、海運との連携を強化した。
 4. 自動車の通行料金を抑制するために高速道路の利用が制限されたため、一般道路の混雑が激しくなり、鉄道の重要性が再び高まった。
- 問2 西日本の地図において四国地方の西側を占め、瀬戸内海や宇和海に面した温暖な気候をいかして果樹栽培が発達し、特に「みかん」の生産で全国的に有名な県を選びなさい。 （2019年 北海道公立入試 類似）
1. 広島県
 2. 愛媛県
 3. 和歌山県
 4. 大分県
- 問3 1990年代から2000年代初頭にかけての、徳島県と日本全国の小売業の動向について、売場面積の変化から読み取れる共通の背景として最も適切なものはどれですか。 （2024年 京都府公立入試 類似）
1. 徳島県と全国のいずれにおいても、この時期に売場面積が増加しており、商業活動の規模が拡大していた。
 2. 徳島県では売場面積が急激に減少したが、全国的には2007年まで右肩上がりで見られ、推移していた。
 3. 徳島県では2004年に100万平方メートルを超えたが、2016年の面積は2012年よりも大きくなっており、拡大が続いている。
 4. 全国の売場面積は1991年から1994年にかけて約100万平方メートル減少しており、徳島県のみが拡大していた。
- 問4 高知県では、冬から春の時期に出荷量を増やすために、温暖な気候やビニールハウスを活用してなすの成長を早める工夫をしています。このように、自然条件や施設を利用して作物の出荷時期を本来の時期よりも早める農業形態を何と呼びますか。 （2025年 三重県公立入試 類似）
1. 促成栽培
 2. 適地適作
 3. 近郊農業
 4. 抑制栽培
- 問5 日本の諸地域の産業構造について、広島県の特色を「工業」と「観光」の両面から説明したものとして最も適切なものはどれですか。 （2016年 和歌山県公立入試 類似）
1. 製造品出荷額よりも農業産出額の方が大きく、特にサクランボや米の生産に特化している。
 2. 製造品出荷額が8兆円を超えて非常に高く、さらに世界遺産などの観光資源により宿泊者数も多いという、工業と観光のバランスが取れた構造である。
 3. 宿泊者数は4県の中で最も多いが、製造品出荷額は1兆円を下回り、観光業への依存度が極めて高い。
 4. 農業産出額においてミカンなどの果実が占める割合が突出しており、製造業は地場産業を中心とした小規模なものに留まっている。
- 問6 高知県ではなすの生産が盛んですが、東京市場におけるなすの卸売価格が「夏に安く、冬から春に高い」という傾向がある中で、高知県が冬から春に出荷を集中させている理由として、最も適切な説明はどれですか。 （2020年 奈良県公立入試 類似）
1. 高知県の冬の寒冷な気候を利用して、時間をかけてゆっくりと育てることで、なすの品質を向上させるため
 2. 黒潮の影響を受けた温暖な気候を活かし、他の産地からの出荷が少ない高価格な時期を狙って収益を上げるため
 3. 夏は台風の被害を受けやすいため、あえて価格の安い冬から春の時期に生産時期をずらして安定供給を図るため
 4. 冬から春はなすの需要が大幅に減少するため、供給量を増やすことで市場価格をさらに下げ、消費を拡大させるため
- 問7 四国地方の各県の産業を比較した際、徳島県にみられる特徴的な状況について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 （2021年 鹿児島県公立入試 類似）
1. 県内全域で商業のみが発達しており、製造業に従事する人の割合は極めて低い。
 2. 観光業への特化が進んでいるため、宿泊・飲食サービス業の割合が他の産業より極端に高い。
 3. 第一次産業である農林水産業に従事する人の割合が、他県を圧倒して最も高い。
 4. 製造業の就業者割合が全国平均より高く、化学工業などの工業が地域経済を支えている。
- 問8 日本の気候区分のうち、年間を通して降水量が少なく温暖な「瀬戸内の気候」が見られる地域において、安定した農業経営を行うために発達した施設や仕組みとして正しいものはどれですか。 （2018年 埼玉県公立入試 類似）
1. 洪水の被害を避けるために、住居を周囲より高く盛った土の上に建てる「輪中」
 2. 火山の噴火による堆積物で覆われた土地で、水持ちを良くするための「客土」
 3. 雨の少ない時期の灌漑用水として利用するための「ため池」の築造
 4. 冷たい風から作物を守るために、家の周りに「屋敷林」を植える工夫
- 問9 東京都中央卸売市場におけるナスの月別入荷量を確認すると、群馬県産が夏から秋にかけて入荷のピークを迎えるのに対し、高知県産は1月から5月にかけて毎月1000トン以上の高い入荷量を示し、夏になると減少するという対照的な動きが見られます。高知県がこのような出荷計画を立てている理由として、最も適切な説明はどれですか。 （2019年 埼玉県公立入試 類似）
1. 高冷地の涼しい気候を利用して、他の地域が生産できない冬場に栽培を集中させているから。
 2. 高知県は夏場の気温が非常に高くなるため、ビニールハウス内の温度管理が不可能になるから。
 3. 夏の台風被害を避けるため、あえて収穫時期を冬から春のみに限定しているため。
 4. 他の産地の出荷量が少ない時期に合わせることで、市場価格が高い時期に有利に販売するため。
- 問10 中国地方に位置する鳥取県の農業産出額において、約58%と半分以上を占めている、この県の農業の特色といえる部門はどれですか。 （2017年 富山県公立入試 類似）
1. 米
 2. 果実
 3. 畜産
 4. 野菜
- 問11 島根県東部における1989年と2019年の工業団地の分布を比較すると、近年は新しく整備された自動車専用道路（国道9号・54号のバイパス等）の沿線に工業団地が目立つようになっています。このような工業の立地傾向について述べた文として、正しいものはどれですか。 （2024年 島根県公立入試 類似）
1. 大型船の入港を前提とした重化学工業が、内陸のバイパス沿いに進出した
 2. 騒音問題为了避免するため、交通量の多い道路沿いから鉄道沿線へに移転が進んだ
 3. 高速道路網の整備にともない、製品の搬出に適した道路沿いへの立地が進んだ
 4. 労働力を確保するため、駅前などの鉄道の利便性が高い場所に集約された